

見附市議会議員 様

令和 7 年 12 月 1 日

見附市議会議員 五十嵐 遼

一 般 質 問 通 告 書

下記のとおり質問したいので、会議規則第 6 1 条第 2 項の規定により通告します。

質問事項 (主題を記載してください。議場配布の一覧表に印刷)

【 1 】 第 6 次見附市総合計画 (素案) の実効性と人口戦略について

答弁を求める者 市長

第 5 次総合計画の最終年度を迎え、現在、第 6 次見附市総合計画 (素案) などが示されています。そして、令和 8 年度からの新たなまちづくりの方向性を示す第 6 次総合計画の策定作業が着実に進められています。

第 6 次総合計画は、「魅力たっぷり 未来につなげる みんなのみつけ」を基本理念に、「笑顔あふれる暮らし満足 No.1 ひとつにつながるコンパクトシティ」という将来像を掲げ、基本目標 1～4 のもとで個別施策と指標を体系的に整理されています。

9 月定例会の一般質問では、第 5 次総合計画の検証内容や人口ビジョン改定案、PDCA の在り方など「総論」を中心に市の考えを確認しました。

今回の 12 月定例会では、一步踏み込んで、第 6 次総合計画の“素案”の中身を具体的に検証するために、以下お伺いします。

(1) 出生数の目標設定と若者・女性の流出という根本課題について

ア 第 6 次総合計画における出生数 220 人 (2035 年)、合計特殊出生率 1.50 (2030 年)、1.64 (2035 年) という目標値は、20～39 歳女性人口の将来推計および若年層の社会動態 (転出入) をどのように見込んで設定したものなのか、お聞かせください。

※ 番号のつけ方 (大項目) 1 2 3 (中項目) (1) (2) (3) (小項目) アイウ



イ 人口ビジョンの分析では、10 代後半～20 代前半の転出超過が大きく、進学・就職に伴う転出が多い一方、20 代後半～30 代と 0～14 歳では転入超過となっているとされています。これらのデータを踏まえ、「進学後に戻ってこない若者」、「就職時に見附を選ばない若者」、「子育て期に見附へ戻ってこない世帯」それぞれのライフステージ別の課題と可能性をどう整理しているのか、見解を伺います。

ウ 若者・女性に「見附で暮らし続けたい、いつか戻りたい」と思ってもらうために、今後 10 年間で重点的に取り組むべき新たな施策や環境整備について、どのようにお考えですか。

(2) 移住や関係人口増加の取り組みの位置づけについて

ア 5 月に策定された「見附市移住促進のための戦略」では、5 つのセールスポイントが示された。こうした移住戦略で示された強みを主要施策や主要事業の中で、どのように反映・位置づけたのか、市の認識と考えを伺います。

イ 今後 5 年間で関係人口施策をどのようなステップで拡充していくのか、中期的なロードマップのイメージを伺います。

(3) コンパクトシティの具体像と公共施設・公共交通・住宅政策の一体的な方向性について

ア 市が描くコンパクトシティの具体像（公共施設の再編、公共交通政策の方向など）はどのように考え、3つの都市機能誘導区域についての役割分担と機能をどのように整理していくのか、現時点で示せる方向性をお聞かせください。

イ 公共施設再編や FM の議論と第6次総合計画のコンパクトシティ方針をどのように一体的に進めていくのか。特に、老朽施設の統廃合や複合化についての基本的な考え方をお聞かせください。

(4) 第6次総合計画では、途中検証の仕組みをどこまで制度的に強化するのか。また、指標目標が未達成の場合の原因や改善プロセスの具体像についてお聞かせください。